

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシヤント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kurocio.

タイ語の Freeze 事象表現

コーパスを使った事例研究

高橋清子

【要旨】 Freeze 事象表現は、日本語とタイ語でその特徴が異なる。本稿のコーパス調査から、タイ語では、複合動詞を含む動詞句連続体が他動性の高い Freeze 事象を表し、単独の複合動詞が他動性の低い Freeze 事象を表す傾向があることがわかった。動詞述語表現の他動性の値はその実際の使用頻度や使用文脈がわからなければ同定し得ないことが示された。

キーワード：Freeze 動詞、日タイ対照、Freeze 事象表現の他動性

1 はじめに

Haspelmath (1993: 97) の表 2 に挙げられている 31 対の自動詞/他動詞に対応するタイ語動詞についてタイ語母語話者コンサルタントに確認していたとき、筆者は初めて「chê-khǎy ‘凍らす’ (chê ‘浸す/冷やす’ + khǎy ‘堅い/凍る’) という他動詞の存在を知った。「浸す」を意味する *chê* が「冷やす」意味で用いられたり、「堅い」を意味する *khǎy* が「凍る」意味で用いられたり、冷凍食品を「食品名 + *chê-khǎy*」で呼んだりすることは知っていたが、*chê-khǎy* が「凍らす」という意味で用いられることは知らなかった。さらに Freeze 事象（温度低下に伴い液体が個体に変化する事象）の日タイ表現を比較してみると面白い発見が多々あった。「魚が凍る」といった単純な表現でさえ簡単には自然なタイ語に訳すことができず、「魚は冷たくて{堅くなる/凍る}ほどだ」などと冗長な言い方をしなければならぬ。「彼は魚を冷蔵庫の中で凍らす」といった少し複雑な表現をタイ語に訳すとなると、「彼は魚を持って行って冷蔵庫の中で凍らす、彼は魚を冷凍スペースに入れておく、彼は冷凍スペースの中で魚を冷

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシヤント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kurocio.

やす」などのように、凍らし方をかなり具体的に描写しなければ自然な表現にはならない。日本語の Freeze 動詞「凍る、凍らす、凍らせる」はどのような Freeze 事象表現に用いられてもその他動性の値が大きくは変わらないのに対し、タイ語の Freeze 動詞「khăj ‘堅い/凍る’、chê-khăj ‘凍らす’」は他の動詞と共に起しなれば叙述的な節を構成することが難しい（1つの Freeze 動詞だけを使った簡潔な Freeze 事象表現は不自然に聞こえる）上、それらの動詞を含む Freeze 事象表現の他動性の高低は文脈や詳しい意味内容に大きく左右されるようだ、ということに気づいた。その気づきが日タイの Freeze 事象表現を対照して考察したいと思った動機である。タイ語の Freeze 事象表現に焦点を当ててその他動性を詳しく考察することにしたのは、タイ語の Freeze 事象表現の他動性を掘り下げれば「動詞述語表現の他動性は個々の表現内容によってその値が変わり得るため実際の使用状況を調査しなければその真相を追究することはできない」という事実を最も如実に示すことができるであろうと考えたからである。

本稿の目的は以下の3つである。第一に、日本語とタイ語の Freeze 動詞の形式的小および意味的特性を対照的に記述する（第2節）。第二に、両語の共同体において Freeze 事象がどのように生起するのかが、両語の Freeze 動詞の異なる特徴に反映されていることを論じる（第3節）。第三に、大規模コーパスから収集した実際の使用例をもとにタイ語の Freeze 事象表現を分類し、その他動性を分析する（第4節）。本稿の分析結果は以下のことを示唆する。第一に、動詞述語表現の他動性の高低を評価するには、Thompson and Hopper (2001: 49–52) が指摘するように、実際の使用頻度や使用文脈などの語用論的側面を考慮しなければならない。第二に、タイ語の複合動詞には、叙述用法を主とする一般動詞タイプの他に、「chê-khăj ‘凍らす’」のような修飾用法（eg. plaa chêt-khăj ‘冷凍魚’）を主とする形容詞¹もどきのタイプがある。

¹ Prasithrathsint (2010: 49–52) によれば、タイ語の形容詞（名詞の後ろに生起し、否定辞で否定されず、限定詞「nîi ‘この’」で限定されない語）には、「nîi ‘この’、nán ‘その/あの’、áuaun ‘他の’、năi ‘どの’、daj ‘どの’」といった単音節の語の他、「sua tua ‘（部分+身体/自分>）個人的な’、sút thóng ‘（最後尾の+腹>）末っ子の’、dii dii ‘（よい+よい>）よい’、tàng tàng ‘（異なった+異なっ

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシヤント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kurocio.

2 日本語とタイ語の Freeze 動詞

2.1 日本語の Freeze 動詞

日本語の Freeze 動詞には次のような特徴がある。第一に、「凍てつく、凍りつく、凍る、凍らす、凍らせる」という和語起源の動詞（和語動詞）²と「凍結する、冷凍する」という漢語起源の動詞（漢語動詞）がある。

第二に、和語動詞「凍る、凍らす、凍らせる」について言えば、その形態的複雑度（その動詞の形態的な複雑さの度合い）および直接使役度（その動詞が表す使役事象において動作主あるいは自然の力が被動者に及ぼす影響の直接性の度合い）に差が見られる。すなわち「凍る<凍らす<凍らせる」の順で形態的複雑度が増し、反対に「凍らせる<凍らす」の順で直接使役度は高くなる³。形態的に最も単純な「凍る」は使役事象ではなく自発事象を表す（「水が凍る」など）。形態的にやや複雑な「凍らす」はより直接的な使役事象を表す（「吹雪が湖面を凍らす」など）。形態的に最も複雑な「凍らせる」はより間接的な使役事象を表す（「魚を冷凍庫に2時間置いて凍らせる」など）。

第三に、漢語動詞「冷凍する」について言えば、「冷凍」という漢語熟語の前後に他の漢語熟語を加えることによって複雑な Freeze 事象を簡潔に表現することができる（「無菌冷凍する、冷凍保存する」など）。「冷凍する」に含まれる「冷凍」という漢語熟語の名詞は、具体的な概念ではなく、抽象的ないわば類型の概念を表し、複合名詞の構成素として使われることが多い（「冷凍庫、急速冷凍」など）⁴。

た> 様々な」といった複合語（複数の形態素を直接構成要素として成り立つ語）もある。

² 「凍つ、凍てる、凍む、凍みる」といった古語は、現代日本語の標準語では使われない。

³ 現代語においては「凍らせる」と「凍らす」は入れ換え可能なことがある。しかし「春を凍らす」改悪は理不尽だ（2013年12月26日、Google 検索）のような比喩的な Freeze 事象を表す「凍らす」（春を凍らす＝庶民が冬の困苦から免れるはずの春に庶民の困苦を招く事態を引き起こす；法律の改悪が庶民を苦しめる）は「凍らせる」には置き代えられない。この事実は「凍らせる」事象と「凍らす」事象の本来的な直接使役度の差（凍らせる<凍らす）を示唆する。

⁴ Google エンジンを使って「冷凍」を含む語句を検索した結果（2013年12月26日検索）、「冷

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」ブラシャント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kuroshio.

2.2 タイ語の Freeze 動詞

タイ語はタイ王国の公用語である。およそ 2 千万の母語話者人口がある。典型的な孤立語で、SVO, Head-Modifier という基本語順を持つ。

タイ語の Freeze 動詞には次のような特徴がある。第一に、「凍る」という自発事象を表す自動詞 *yúak-khǎy* は、物理現象としての「凍る」や「氷点」といった科学的概念を表すためにつくられた自然科学分野の専門用語である。辞書に記載はあるが、日常生活で使われることはない⁵。日常会話で「凍る」事象を表現するときは「*khǎy* 堅い」⁶を使う (e.g. *plaa yen con khǎy (tua)* [魚+冷たい+～に至るまで+堅い/凍る (+体)] ‘魚は (体が) {堅くなる/凍る}ほど冷たい、魚は凍る」⁷)。

第二に、「凍らす」という使役事象を表す他動詞 *chǎe-khǎy* / *chǎe-yúak-khǎy*⁸ (e.g. *kháw chǎe-khǎy plaa* ‘彼は魚を凍らす’) は「*chǎe* 浸す」と「*khǎy* 堅い」/ *yúak-khǎy* ‘凍る」という 2 つの動詞が組み合わせられた複合語であるが、これら

凍する、冷凍した」などの述語の用例は少なく、「冷凍食品、冷凍保存方法」などの複合名詞の用例のほうが多いことがわかった。

⁵ 母語話者コンサルタントも聞き取り調査のときに *yúak-khǎy* を使わなかった。この語は「*yúak* 寒気がする」と「*khǎy* 堅い」が組み合わされた複合語であると考えられる。

⁶ *khǎy* は基本的には「堅い」という状態を表す自動詞である。属性や性質を表すタイ語の語には、注 1 で言及した形容詞の他、「*khǎy* 堅い」のような動詞—否定辞で否定され得る語 (Prasithrathasint 2010: 46–47) —の 1 下位分類である状態動詞がある。形容詞より状態動詞のほうが多い。一般に、態や相の標識を伴わないタイ語の動詞は、実際の談話文脈の中で発話されない限り、その態や相の値を確定することができない。生起する統語環境や談話文脈が異なれば、態や相の解釈も異なり得る。*khǎy* は「堅い」という状態の他、「堅くなる」という状態変化を表すためにも使われる。

⁷ 「*plaa khǎy*」だけでは「魚は堅い」としか解釈されない。状態変化を明示的に表す完了相標識 *khûn* を添えて「*plaa khǎy khûn*」としても「魚は堅くなる」としか解釈されない。

⁸ 母語話者コンサルタントは聞き取り調査において *chǎe-khǎy* を使い、*chǎe-yúak-khǎy* は使わなかった。Thai National Corpus には、堅い表現に使われている *chǎe-yúak-khǎy* の使用例（「*ʔúsàhàkam ʔàhàam chǎe-yúak-khǎy* 冷凍食品産業」など）が数例あった。*chǎe-yúak-khǎy* はそのような堅い表現にしか使われず、*chǎe-khǎy* より使用頻度が低い。

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」ブラシャント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kuroshio.

の語が使われ出したのはかなり最近のことであると考えられる。その証拠に、タイ国内で最も権威ある辞書とされる『タイ学大学院辞書』には、2011 年版 (Royal Institute of Thailand 2013) においても、それらの語項目の記載はない。

第三に、「凍る」という自発事象を表す動詞より「凍らす」という使役事象を表す動詞のほうが形態的複雑度が高い点、「魚を凍らす」などの直接使役度の高い事象は他動詞が直接目的語をとる形式で表される点、「魚を冷蔵庫で冷やして、魚が凍る」などの直接使役度の低い事象は複文の形式で表される点は、日本語の場合と並行的である。しかし日本語と異なり、タイ語では「*chê-khêj plaa* ‘魚を凍らす’」といった他動性の高い Freeze 事象表現の使用頻度が極端に低い。タイ語の最大規模の電子コーパスである Thai National Corpus (TNC) <<http://ling.arts.chula.ac.th/tnc2/>> から「*chê-khêj* ‘凍らす’」の実際の使用例を収集したところ (2013 年 3 月 27 日検索)、目的語をとる叙述用法 (「*chê-khêj plaa* ‘魚を凍らす’」) はなく、複合名詞の修飾部分になる用法 (「*plaa chê-khêj* ‘冷凍魚’」)⁹ が多いことがわかった (第 4 節)。機能の点から言えば、タイ語の複合動詞「*chê-khêj* ‘凍らす’」は、修飾語として使われることが多い日本語の漢語熟語名詞「冷凍」に似ている。

⁹ 査読者から「*plaa chê-khêj* ‘冷凍魚’」の修飾部分を成す *chê-khêj* は関係節か不定節か。節性の低い (より句に近い) 不定節は Hopper and Thompson 1980 や Thompson and Hopper 2001 の分析対象から除外されている」というコメントをもらった。本稿では不定節 (複合名詞の修飾部分) の *chê-khêj* も分析対象とし、その定性 (表す事象の現実性や対象の個性) の低さに起因する他動性の低さを指摘する。不定節も分析対象に含めるのは、タイ語の不定節と関係節は連続的であり、両者の定言的分類は不可能であると考えられるからである。本稿のコーパス調査 (第 4 節) から *chê-khêj* は不定節 (複合名詞の修飾部分) としての使用が多いことがわかったが、関係節の読みが不可能というわけではない。関係節化形式を含まない裸の関係節構文 (主名詞句 + 関係節) は、文脈が不明であれば、不定節構文 (主名詞句 + 不定節; 複合名詞句) や叙述構文 (主語 + 述語) と区別がつかないことがある。その主たる理由として、タイ語の動詞には定動詞と不定動詞の形態的区別がなく、必須項もないため、句や節や文などの統語単位が曖昧であることが挙げられる。その他、連体修飾形式「被修飾語の名詞句 + 修飾語の動詞句」に叙述形式「主語の名詞句 + 述語の動詞句」に語順や音調の違いがないことも関係している (高橋 2011b: 255)。

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシヤント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kuroshio.

3 Freeze 事象の背景

Freeze 動詞は、Haspelmath (1993: 97) の表 2 の 25 番目に挙げられ、表 4 (ibid.: 104) では Boil 動詞（温度上昇に伴い液体が沸点を超えて気化する事象—Boil 事象—を表す動詞）に続いて 2 番目に挙げられている。Boil 事象や Freeze 事象は、人間が引き起こすことができない事象というわけではないが、典型的には「我々の身の周りで普通に生起する、外的動作主（意志的に被動者に働きかけて使役事象を引き起こす動作主）が必要とされない事象」（Haspelmath 1993: 103–105）—すなわち自発事象—であると説明されている。日本語共同体を含め、外気温がしばしば零度以下になるところに住む人々が Freeze 事象を「普通に生起する事象」と捉えるのは確かに自然である。そのような場所では、「凍る」という自発事象を表す動詞が頻繁に使われて当然と言えよう。日本語で「凍る>凍らす>凍らせる」という自動詞から他動詞への形態的派生が見られるのも、「凍る」事象を基本事象と見なすに足る日本語共同体の自然環境および生活環境が背景にあらう。

しかし東南アジアに位置するタイ語共同体では、ものが自然に凍ることはあり得ない。タイ語に「凍る」という自発的变化事象を表す日常語の動詞がないのは、「凍る」事象は「普通に生起する事象」ではあり得ず、日常生活の中で動詞 1 語でコンパクトに表現する必要もないからだと言える。さらに、他動詞「ché-khǎj / ché-yúak-khǎj ‘凍らす’」も『タイ学士院辞書』2011 年版に未だ語項目としての記載がない。それはタイ語共同体において完全に定着した複合語であるとは見なされていないことを意味する。冷凍庫や冷凍食品が普及し始めたのは近年のことであり、今でもそれらから縁遠い生活を送っている人々が多いという事情が背景にある。しかしながら、タイで生産される冷凍エビや冷凍鶏などの冷凍食品は今やタイの主要輸出品の 1 つに数えられ、産業面の新聞記事や報告書では ché-khǎj が多用されていることもまた事実である。産業分野の専門用語としてはすでに定着していると言える¹⁰。

¹⁰ 民間の出版社が編纂した（官製の『タイ学士院辞書』より情報量が多い）『マティション辞書』（Matichon 2004）には ché-khǎj の語項目が載っている。

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシャント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kurocio.

熱帯の人々の認識では、Freeze 事象も Cool-down 事象（温度が下がる事象）も、どちらも自然に逆らった何らかの人為的操作が必要とされる事象であることに変わりはない。Freeze 事象のほうは未だタイ語共同体の多くの人々にとって身近な事象ではないが、Cool-down 事象のほうはすでに馴染みのある事象になっている。家に冷蔵庫はなくとも、近くの店で氷を購入して保冷容器に入れ、その中でものを冷やしている人が多い。料理店の店頭では食材が氷の上に並べられ、行商の手押し車の中では果物や飲み物が氷あるいは氷を入れた冷水によって冷やされている。タイ語共同体では、まだ冷蔵庫が各家庭に普及していなかった頃、「（氷の製造と販売が各地で常態化して以降は、氷を使って冷水をつくり、その）冷水に浸して冷やす」ことが Cool-down 事象の典型であった。複合語「chê-yen ‘冷やす」（chê ‘浸す’ + yen ‘冷たい）は「冷水に浸して冷やす」という当時の典型的な Cool-down 事象を基盤として成立したと言えよう。今では chē-yen の意味は一般化を遂げ、冷水にものを浸して冷やす Cool-down 事象の他、冷蔵庫のような冷やされた空間にものを置いて冷やす Cool-down 事象も chē や chē-yen で表現され得る。

タイ語共同体の中で先に誕生し定着した複合語「chē-yen ‘冷やす」は、新たな複合語「chē-khǎj ‘凍らす」が誕生するにあたって、先行モデルの役割を果たした—すなわち、既存の複合語の意味と形式から、類推によって、新たな複合語が創造された—のではなかろうか。具体的には、以下のような語形成の過程を経たのではないかと考えられる。まず chē-yen という複合語の定着によって、元々「（冷水に）浸す」という意味を表していた動詞 chē がより抽象的で一般化された「冷やす」という意味を獲得した。そこからさらに、chē-yen の語構造（chē ‘冷やす’ + yen ‘冷たい）に準じて、他動詞「chē ‘冷やす」と自動詞「khǎj ‘堅い」を組み合わせることによって「chē-khǎj ‘凍らす」という語が作られた。しかし「chē-yen plaa ‘魚を冷やす」といった chē-yen の叙述用法のもとに chē-khǎj がつくられたわけではないようである。次節で詳しく述べるように、コーパスから拾った chē-yen と chē-khǎj の実例は修飾用法が多く、その修飾用法は被動者の意味役割を持つ主名詞を修飾するものが多い。この事実は、

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」ブラシャント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kuroshio.

両者の被動者修飾用法（「plaa chée-yen ‘冷蔵魚」と「plaa chée-khǎi ‘冷凍魚」など）に強い結びつきがあることを示唆する。

4 タイ語の Freeze 事象表現

4.1 動詞句連続体

タイ語では複数の動詞句が接続詞を介さずに直接結びつき動詞句連続体¹¹が構成されることが多い。タイ語の動詞句連続体の基本形は (1)–(4) のように 2 つの動詞句が組み合わせられた形である (Chuwicha 1993: 39; Takahashi 2009: 215)。動詞句連続体が表す事象は、文化的に容認可能で、想起が容易な、複雑だがまとものある単一の事象であると当該言語話者によって見なされている事象である。動詞句連続体に含まれる各動詞句で表される事象は、その全体事象の構成素としての事象である。それらはお互い経験的に結びついた事象であり、その結びつきは文化的に重要な結びつきであると当該言語話者は認識している (Bruce 1988: 28–32, 44–45; Durie 1997: 326–330; Enfield 2002: 232, 242–254)。

- (1) a. kháw cháj ɲan mòt
PRO¹² 使う お金 尽きる
彼は金を使って（金が）尽きる。「cháj ‘使う’→mòt ‘尽きる」
- b. kháw kin láw maw
PRO 飲む 酒 酔う
彼はお酒を飲んで酔う。「kin ‘飲む’→maw ‘酔う」
- c. cækan tòk tèek
花瓶 落ちる 壊れる
花瓶は落ちて壊れる。「tòk ‘落ちる’→tèek ‘壊れる」

¹¹ より平易に「動詞連続体」と呼ばれることもある。

¹² 「PRO: pronoun」というグロスは「代名詞一般」を意味する。タイ語の代名詞は基本的に多義で意味範囲が広く、実際の談話文脈が不明であれば指示物の人称、数、性別などを特定できないことが多い。本稿の例文に含まれる代名詞の訳は、したがって、便宜的なものである。

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシャント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
 Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kuroshio.

- (2) cækan loj maa
 花瓶 浮遊する 来る
 花瓶は漂流して来る。「loj ‘浮遊する’=maa ‘来る’」
- (3) khaw paj súuu
 PRO 行く 買う
 彼は買いに行く。「paj ‘行く’→súuu ‘買う’」
- (4) khaw yæk paj
 PRO 欲する 行く
 彼は行きたい。「yæk ‘欲する’=paj ‘行く’」

基本動詞句連続体の統語構造は、Rappaport Hovav and Levin (2001) の分類に従えば、以下の3種類に分類できる。

- ・ transitive-based, object-oriented タイプ：先行動詞は目的語を取り、後続動詞は先行動詞の目的語の述語になる。例：(1a)。
- ・ transitive-based, subject-oriented タイプ：先行動詞は目的語を取り、後続動詞は先行動詞の主語の述語になる。例：(1b)。
- ・ intransitive-based, subject-oriented タイプ：先行動詞は目的語をとらず、後続動詞は先行動詞の主語の述語になる。例：(1c)–(4)。

基本動詞句連続体が表す事象の事象構造は大きく以下の4種類に分類できる (Takahashi 2009)。

- ・ 継起関係にある2つの現実事象：現実事象→現実事象。例：(1)。
- ・ 共起関係にある2つの現実事象：現実事象＝現実事象。例：(2)。
- ・ 継起関係にある現実事象と非現実事象：現実事象→非現実事象。例：(3)。
- ・ 共起関係にある現実事象と非現実事象：現実事象＝非現実事象。例：(4)。

以下に複合動詞 chæ-yen ‘冷やす’と chæ-khæj ‘凍らす’に関連する表現（コーパスの実例をもとにした作例）を挙げる。1つの動詞「chæ ‘浸す’」を含む表現を

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」ブラシャント・パ
 ルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の
 対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
 Takahashi, Kiyoko. 2015. ‘Freeze’ Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity.
 In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-
 Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kurocio.

(5) に挙げ、2 つの動詞「chéé ‘浸す/冷やす」と「yen ‘冷たい」あるいは「chéé
 ‘浸す/冷やす」と「khěj ‘堅い」を含む表現を (6) に挙げる。

- (5) a. kháw chéé plaa (lɔŋ) naj nám yen
 PRO 浸す 魚 (下る) ~の中 水 冷たい
 彼は魚を冷水に浸す。
- b. plaa chéé nám yen yùu
 魚 浸す 水 冷たい DUR
 魚は冷水に浸かっている。
- c. plaa chéé yùu naj nám yen
 魚 浸かる DUR ~の中 水 冷たい
 魚は冷水に浸かっている。
- (6) a. kháw chéé plaa con (man) {yen/khěj}
 PRO 浸す/冷やす 魚 CONJCT¹³ (PRO) {冷たい/堅い}
 (それが) {冷える/堅くなる} まで彼は魚を浸す (あるいは冷やす)。
- b. kháw chéé plaa hâj (man) {yen/khěj}
 PRO 浸す/冷やす 魚 誘発する/COMP (PRO) {冷たい/堅い}
 (彼は魚を浸して (あるいは冷やして) (それが) {冷える/堅くな
 る} 事態を誘発する>) 彼は {冷えるように/堅くなるように} 魚を浸す
 (あるいは冷やす)。
- c. kháw chéé plaa {yen/khěj}
 PRO 浸す/冷やす 魚 {冷たい/堅い}
 *彼は魚を浸して (あるいは冷やして) (魚が) {冷える/堅くなる}。
 彼は {冷たい/堅い} 魚を浸す (あるいは冷やす)。

(5a) の第 1 動詞「chéé ‘浸す」の後ろに第 2 動詞「lɔŋ ‘下る」が続く場合、(1a)

¹³ 「CONJCT: conjunctive」というグロスには「接続詞」を意味する。

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシヤント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kuroshio.

タイプ（統語的には「transitive-based, object-oriented」タイプで、意味的には「現実事象→現実事象」タイプ）の動詞句連続体となる。*chê* は (5a) のように動作主名詞句を主語、被動者名詞句を目的語にとり「浸す」という使役の意味を表す他、(5b), (5c) のように独立存在物名詞句を主語として「浸かる」という中間態の意味を表すこともある。(5b) では、道具としての液体を表す名詞句 (*nám yen* ‘冷水’) が *chê* の後ろに添えられている。

(6a) は、接続詞「con ‘～に至るまで」を含む複文である。(6b) は、現代タイ語では一般的に、「目的事象や期待事象などの非現実事象を表す補語 (*hâi yen* ‘冷えるように’、*hâi khǎy* ‘堅くなるように’) を含む構文」であると見なされる。つまり、(6b) に含まれる *hâi* は、「事態を誘発する」という意味を表す動詞（実質語）ではなく、目的事象や期待事象を表す補語を導く補語標識（機能語）であると見なされることが多い (Takahashi 2012: 139)。(6c) は、「魚を浸して（あるいは冷やして）（魚が）{冷える/堅くなる}」という意味には解釈されず、「{冷たい/堅い} 魚を浸す（あるいは冷やす）」という意味に解釈される¹⁴。言い換えれば、末尾の動詞「*yen* ‘冷たい’、*khǎy* ‘堅い」は、動詞句連続体の構成素であるとは解釈されず、直前の主名詞「*plaa* ‘魚」を修飾する連体修飾節を構成していると解釈される。「*chê* ‘浸す/冷やす」と「*yen* ‘冷たい」の2つの動詞あるいは「*chê* ‘浸す/冷やす」と「*khǎy* ‘堅い」の2つの動詞を構成素とする (1a) タイプの動詞句連続体は成立しないことがわかる。動詞句連続体「*chê* ‘浸す/冷やす」+ *yen* ‘冷たい’/*khǎy* ‘堅い」が成立しないということは、すなわち、タイ語話者の認識では、他動詞「*chê* ‘浸す/冷やす」が表す事象と自動詞「*yen* ‘冷たい’、*khǎy* ‘堅い」が表す事象には経験的な結びつきや文化的に重要な結びつきがない（自然な原因・結果の関係性が認められない）

¹⁴ タサニー・メーターピスィット氏の指摘。(6c) の「*plaa* ‘魚」と「*yen* ‘冷たい’、*khǎy* ‘堅い」が名詞句「*plaa yen* ‘冷たい魚’、*plaa khǎy* ‘堅い魚」を構成していることは、後ろに「*tua nǐ* ‘この」などの連体修飾表現を添え得ることによって証明される (eg. *plaa yen tua nǐ* ‘この冷たい魚’、*plaa khǎy tua nǐ* ‘この堅い魚」)。ただし「*plaa khǎy* ‘堅い魚」は日常生活でほとんど使われることのない不自然な表現である。そのため「*kháw chéé plaa khǎy (tua nǐ)* ‘彼は（この）堅い魚を浸す」という表現も不自然に聞こえる。

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」ブラシャント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kurosio.

ということである。

4.2 複合語

典型的孤立語のタイ語における唯一の生産的な語形成の方法は、複合語をつくることである。タイ語の複合語は、複合動詞と複合名詞に分かれる。

タイ語の複合動詞は、畳語、重複語、動詞句/動詞句連続体、述部、節などの形式と関連があり (cf. Singnoi 2008)、*chê-yen* ‘冷やす’や *chê-khěj* ‘凍らす’は「動詞句連続体から転用されたタイプ」の複合動詞である。複合動詞 *chê-yen* / *chê-khěj* を含む表現を (7) に挙げる。

- (7) a. *kháw* {*chê-yen*/*chê-khěj*} *plaa*
PRO {冷やす/凍らす} 魚
彼は魚を {冷やす/凍らす}。
- b. *kháw* *ʔaw* *plaa* *maa* {*chê-yen*/*chê-khěj*}
PRO 持つ 魚 来る {冷やす/凍らす}
彼は魚を持って来て {冷やす/凍らす}。
- c. *plaa* *thùuk* (*kháw*) {*chê-yen*/*chê-khěj*}
魚 PASS (PRO) {冷やす/凍らす}
(魚は(彼が) {冷やす/凍らす} という事態を被る>) 魚は(彼によつて) {冷やされる/凍らされる} ¹⁵。
- d. *plaa* {*chê-yen*/*chê-khěj*} *yùu* *naj* *túu yen*
魚 {冷やす/凍らす} DUR ~の中 冷蔵庫
魚は冷蔵庫の中で(自ずと) {冷えている/凍っている} ¹⁶。

¹⁵ 「*thùuk chê-khěj* ‘凍らされる’」より「*thùuk chê-yen* ‘冷やされる’」のほうが自然である (タサニー・メーターピスィット氏との私信)。

¹⁶ 「*chê-khěj yùu* ‘(自ずと) 凍っている’」より「*chê-yen yùu* ‘(自ずと) 冷えている’」のほうが自然である (タサニー・メーターピスィット氏との私信)。

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」ブラシャント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
 Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kuroshio.

e. plaa {ché-yen/ché-khěj}

魚 {冷やす/凍らす}

冷蔵魚/冷凍魚

(7a), (7b) は能動態の叙述用法である。(7a) では複合動詞が単独で使われ、(7b) では複合動詞が動詞句連続体の後続動詞として使われている。(7c) は受動態の叙述用法である。コーパスから集めた実際の用例の中に動作主名詞句を含む受動態構文はなかったが、動作主名詞句が生起するときの統語位置を示すために代名詞「kháw 'PRO'」を括弧に入れて表記した。(7d) は中間態の叙述用法である。(7e) は名詞句であり、主名詞「plaa '魚」が ché-yen / ché-khěj によって修飾されている。

TNC コーパスには ché-khěj '凍らす' が 55 トークン含まれていた。比喩的用法の 10 トークンと固有名詞（会社名）に使われた 1 トークンを除いた 44 トークンの中で、複合名詞の構成素として使われる修飾用法（「kúnj ché-khěj '冷凍エビ」や「chónj ché-khěj '冷凍スペース」など）が 40 トークンと、圧倒的に多かった。

タイ語の複合名詞は、下記のとおり、構成素の組み合わせパターンと主名詞の意味役割によっていくつかの種類に分類できる（Singnoi 2005: 48–56）。

(a) S-V(O) パタン

1. Agent-V(O) : khon-khàp-rót (人+駆る+車) '運転手'
2. Experiencer-V(O) : phûu-rúu (人+知る) '事情に通じた人'
3. Theme-V : plaa-díp (魚+生た) '生魚'
4. Instrument-V(O) : môo-hŭn-khâaw (鍋+炊く+米) '炊飯器'

(b) O-V パタン

1. Patient-V : kiŭaj-thót (バナナ+揚げる) '揚げバナナ'
2. Patient-V-Patient : mŭu-thót-krathiam (豚+炒める+ニンニク) 'ニンニクを添えた豚肉炒め'

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシヤント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
 Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kurocio.

(c) COMP-V パタン

1. Place-V(O) : hōn-ráp-khēk (部屋+迎える+客) ‘応接室’
2. Time-V(O) : wan-yūt (日+止まる) ‘休日’

(d) V-S パタン

1. V-Agent : phát-lom (吹く+風) ‘(風が吹く>) 扇風機’
2. V-Theme : wān-caj (甘い+心) ‘(心が甘い>) 愛する女性’

TNC コーパスに含まれていた *chê-khēj* を含む複合名詞は、(b1)「主名詞が被動者の意味役割を持つ O-V パタン」と (c1)「主名詞が場所の意味役割を持つ COMP-V パタン」の 2 種類だった。「冷凍エビ」などの (b1) 被動者タイプが 25 トークン、「冷凍スペース」などの (c1) 場所タイプが 15 トークンあった。

一方、叙述用法は 4 トークンしかなかった。その 4 トークンの中には、「凍らされた」という受動態の例が 2 トークン¹⁷、「凍っている」という結果状態を表す例（「氷の塊の中に凍って沈んでいるのが発見された」）が 1 トークン、「冷凍保存する」という行為を表す例（「死体を持って行って氷の塔の中に冷凍保存した」）が 1 トークン含まれていた。行為を表す例の *chê-khēj* は、(7b) のような目的語をとる必要のない動詞句連続体の後続動詞として使われていた。(7a) のような目的語をとる例は、母語話者コンサルタントへの聞き取り調査では容認できると判定されたが、TNC コーパスには含まれていなかった¹⁸。

¹⁷ *chê-khēj* が「無為に放置する」という比喩の意味を表す場合は受動態（「無為に放置される」や「周りの変化から置き去りにされ旧態依然のまま取り残される」など）になることが多く、10 トークンあった比喩的用例の中で半数以上の 6 トークンが受動態だった。因みに、(1a) タイプの「*khāa tajj* 殺して死ぬ」という動詞句連続体も受動態になることが多い。その受動態構文は「原因となる行為（殺す）と結果の状態変化（死ぬ）の両者が焦点化され統合された単一事象（殺して死ぬ）の生起によって主語名詞句の指示物が影響を被る」ことを表す（高橋 2011a）。

¹⁸ 「*chê-yen* 冷やす」の用例は TNC コーパスになかったので、Google エンジンを使って検索したところ（2013 年 3 月 27 日検索）、「*chê-khēj* 凍らす」と同様、修飾用法（「*chān chē-yen* 冷蔵食品」など）が圧倒的多数を占めていることがわかった。見つかった少数の叙述用法には、名詞化された例（「*kan chē-yen* 冷蔵」など）と目的語をとる必要のない動詞句連続体の後続動詞として使われている例（「*zaw waj-dēn paj chē-yen* 赤ワインを持って行って冷やす」など）しかな

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシヤント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
 Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kuroshio.

TNC コーパスから拾った *chêe-khǎj* を含む複合名詞の多くが「冷凍エビ、冷凍鶏、冷凍食品」などの「被動者タイプ」だったということは、複合名詞に含まれる *chêe-khǎj* の多くは「凍らされた」という受動態（あるいは「（自ずと）凍った」という中間態）の意味を表しているということである¹⁹。 *chêe-khǎj* は、(7a), (7b) のように動的でより具体的、個別的な「何かを凍らす」という行為（他動性の高い行為）を表すために使われるよりも、(7c) のように静的でより抽象的、一般的な「冷凍の何か」という状態（他動性の低い状態）を表すために使われることのほうが多い。つまり（一般の動詞の主用法は叙述用法であるが） *chêe-khǎj* の主用法は修飾用法である。 *chêe-khǎj* は「被動者を表す名詞を修飾する修飾語（冷凍の～）として主に機能する形容詞的な複合語」である。

4.3 Freeze 事象表現の他動性

タイ語の Freeze 事象表現 (7a)–(7e) の他動性比較を表 1 に示す。他動性の高さを示唆する 10 の因子 (A)–(J) (Hopper and Thompson 1980: 252–253) の適合数は、「能動態の複合動詞単独の叙述用法 (7a)：彼は魚を凍らす」と「能動態の動詞句連続体の叙述用法 (7b)：彼は魚を持って来て凍らす」と「受動態の叙述用法 (7c)：魚は凍らされる」が 9、「中間態の叙述用法 (7d)：魚は（自ずと）凍っている」が 4、「修飾用法 (7e)：冷凍魚」が 2 である。したがって他動性の値は「(7a)/(7b)/(7c)>(7d)>(7e)」の順に低くなると言える。

かった。

¹⁹ 査読者から「複合名詞に含まれる *chêe-khǎj* は“誰かが凍らす、凍らせる”という能動態の意味を表していると考えられないか。もし能動態であれば、その他動性は高い」というコメントをもらった。しかし複合名詞に含まれる不定節の *chêe-khǎj* は“凍らされた”といった受動態もしくは“（自ずと）凍った”といった中間態の意味を表している。先に挙げた複合名詞分類一覧を見てほしい。動作主 (Agent) の主語 (S) を含む「O(S)-V パターン」はない。査読者の挙げた例「*ʔaahǎan tham ʔeɛj* ‘自分でつくった料理’」の修飾部分「*tham ʔeɛj* ‘自分でつくる’」は、節性の低い不定節ではなく、節性のより高い関係節であると考えられる。さらに言えば、動作主が明示された受動態表現 (7c) も一般的ではない（タサニー・メータービスイット氏との私信）。

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシヤント・パ
ルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の
対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. ‘Freeze’ Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity.
In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-
Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kuro시오.

表 1：タイ語の Freeze 事象表現 (7a)–(7e) の他動性比較

	ㄱ 複 数 参 加 者	ㄴ 動 作 性	ㄷ 動 作 限 界 あ り	ㄹ 瞬 間 的	ㅁ 意 志 的	ㅂ 肯 定	ㅅ 現 実 性	ㅇ 動 作 能 力	ㅈ 全 体 的 被 動 作 性	ㅊ 対 象 の 個 体 性
(7a)	√	√	√		√	√	√	√	√	√
(7b)	√	√	√		√	√	√	√	√	√
(7c)	√	√	√		√	√	√	√	√	√
(7d)						√	√		√	√
(7e)						√			√	

複合動詞 *chê-khǎj* が「凍らす」という使役の意味を表すときは (7b) のように
目的語をとる必要のない動詞句連続体の後続動詞として使われることがわかつた。
さらに、そのような叙述用法は実際にはあまり見られず、(7e) のような
「冷凍の～」という意味の修飾用法の使用例が圧倒的に多いということもわかつた。
修飾用法は状態性の表現であり、動的事象を表す叙述用法に比べ、その他動性は
低い。特に、(G) 事象の現実性 (Mode) と (J) 対象の個性性 (Individuation of O) の
程度が低いことが修飾用法の特徴である。叙述用法 (7a)–(7d) の *chê-khǎj* は現実の
Freeze 事象を表すが、修飾用法 (7e) の *chê-khǎj* は非現実の Freeze 事象を表す。
叙述用法 (7a)–(7d) の被動者名詞句の指示物は当該談話文脈の中で同定できる
具体的な被動者 (個別のもの) だが、修飾用法 (7e) の主名詞の指示物は類型概念
としての抽象的な被動者 (一般化されたもの) である。

5 おわりに

本稿のコーパス調査によって、タイ語話者は、具体的に「何かを凍らす」事象
を叙述したいときには複合動詞を含む動詞句連続体を使い、何かについて
「冷凍の～」と修飾してタイプ分けしたり一般化したりしたいときには単独の

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシャント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.
Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kurocio.

複合動詞を使う傾向があることが明らかになった。複合動詞 *chêe-khên* は修飾機能を主とし、いわば形容詞もどきである。形容詞的の性質を持つ複合動詞で表される事象は動詞句連続体で表される事象より低い他動性を示す。

現代タイ語の動詞述語表現に（1 音節の基本的な）動詞が単体で使われることはそれほど多くない。使用頻度が高いのはむしろ動詞句連続体や複合動詞である。使用頻度を言語形式の典型性の指標とするならば、タイ語動詞述語表現の典型は動詞句連続体や複合動詞であると言ってよいだろう。そうした動詞述語表現の他動性とはいかなるものか。本稿はその問いを追求した 1 つの事例研究である。本稿の分析結果は「実際に個々の動詞述語表現が当該言語共同体の中でどのように使われているのかを調査しなければ、その他動性の値を同定することはできない」という事実を示している。

謝辞

本稿は 2012 年度神田外語大学研究助成（短期在外研究 No.11）を受け、タイ国家学術研究評議会（National Research Council of Thailand）から許可（No. 0002/6121）を受けて、タイで 5 ヶ月間（2012 年 10 月から 2013 年 2 月まで）実施した調査研究の成果の一部である。根気よく母語話者コンサルタントを務めてくださったアッカラチャイ・モンコンチャイ氏と例文の適格性を判断していただき助言をいただいたタサニー・メーターピスィット氏に感謝申し上げる。建設的な批評と有益な示唆をいただいた 2 名の匿名査読者にも感謝申し上げます。

参考文献

- Bruce, Les (1988) Serialization: From syntax to lexicon. *Studies in Language* 12(1): 19–49.
Chuwicha, Yajai (1993) *Khwaam pen prayòok khōn nàj sàaj kariyaa rian naj phaasāa thaj* [Clausehood in serial verb constructions in Thai]. Ph.D. dissertation, Chulalongkorn University.
Durie, Mark (1997) Grammatical structures in verb serialization. In: Alex Alsina, Joan Bresnan, and Peter Sells (eds.) *Complex Predicates*, 289–354. Stanford: CSLI Publications.
Enfield, N. J. (2002) Cultural logic and syntactic productivity: Associated posture constructions in Lao. In: N. J. Enfield (ed.) *Ethnosyntax: Explorations in grammar and culture*, 231–258. Oxford: Oxford University Press.
Haspelmath, Martin (1993) More on the typology of inchoative/causative verb alternations. In: Bernard Comrie

高橋清子. 2015. 「タイ語の Freeze 事象表現：コーパスを使った事例研究」 プラシヤント・パルデシ、ハイコ・ナロック、桐生和幸（編）『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』, 205–221. くろしお.

Takahashi, Kiyoko. 2015. 'Freeze' Event Expressions in Thai: A Corpus-Based Study on Transitivity. In Pardeshi, Prashant, Heiko Narrog and Kazuyuki Kiryu (eds.) *A Crosslinguistic Study of Transitive-Intransitive Alternating Verbs*, 205–221. Tokyo: Kurocio.

and Maria Polinsky (eds.) *Causative and transitivity*, 88–120. Amsterdam: John Benjamins.

Hopper, Paul J. and Sandra A. Thompson (1980) Transitivity in grammar and discourse. *Language* 56(2): 251–299.

Matichon (2004) *Phôicàncanûkrom chabàp matichon* [Matichon dictionary of the Thai language]. Bangkok: Matichon.

Prasithrathsint, Amara (2010) *Chanût khôn kham naj phaasàa thaj: Kaan wîkhr-5? thaay wâakkyâsâmphan* [Parts of speech in Thai: A syntactic analysis]. Bangkok: A.S.P. Publishers.

Rappaport Hovav, Malka and Beth Levin (2001) An event structure account of English resultatives. *Language* 77(4): 766–797.

Royal Institute of Thailand (2013) *Phôicàncanûkrom chabàp ràatchabanditâyâsâthâan phxo sô sôn phan hâa rôj hâa sîp sîi* [Royal Institute dictionary of the Thai language, 2011 edition]. Bangkok: Royal Institute of Thailand.

Singnoi, Unchalee (2005) *Kham naam prasôm: Sât lê? sîn naj kaan sâaj kham thaj* [Compound nouns: Science and art of Thai word-formation]. Bangkok: Chulalongkorn University Press.

Singnoi, Unchalee (2008) Kham kariyaa prasôm naj phaasàa thaj: Muat mùu thû prâp phian thâp sôn lê? sâp sôn [Compound verbs in Thai: Confusing, overlapping and transitional category]. *Language and Culture* 27(2): 23–40.

Takahashi, Kiyoko (2009) Basic serial verb constructions in Thai. *Journal of the Southeast Asian Linguistics Society* 1: 215–229.

高橋清子 (2011a) 「タイ語コーパス TNC を利用した談話分析に基づく khâa-taay (殺す—死ぬ) 事象の考察」『日本認知言語学会論文集』11: 191–201.

高橋清子 (2011b) 「タイ語の関係節構文」長谷川信子（編）『70 年代生成文法再認識：日本語研究の地平』253–275. 東京：開拓社.

Takahashi, Kiyoko (2012) On historical semantic changes of the Thai morpheme *hâj*. *Journal of the Southeast Asian Linguistics Society* 5: 126–141.

Thompson, Sandra A. and Paul J. Hopper (2001) Transitivity, clause structure, and argument structure: Evidence from conversation. In: Joan Bybee and Paul Hopper (eds.) *Frequency and the Emergence of Linguistic Structure*, 27–60. Amsterdam: John Benjamins.